



一般社団法人 日本森林学会

「林業遺産」

2023年度 1件を選定しました

事業の背景と経緯

日本各地の林業は、地域の森林をめぐる人間の営みの中で編み出され、明治期以降は海外の思想・技術も取り入れながら、大戦期の混乱を経て今日に至るまで、多様な発展を遂げてきました。

日本森林学会では、学会100周年を契機として、こうした日本各地の林業発展の歴史を、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、「林業遺産」選定事業を2013年度から開始致しました。

11年目となった2023年度は、1件を林業遺産(登録No: 51)として認定しました。選定結果は、2024年5月22日の日本森林学会定時総会において公表され、認定証・記念品が各件の所有者・管理者等に贈呈されました。

問い合わせ先など

事業推進責任者: 日本森林学会 会長 丹下 健

林業遺産選定委員長 深町 加津枝

広報責任者: 日本森林学会 総務理事 陣川 雅樹

林業遺産選定委員会 事務局委員 檀浦 正子

学会事務局: 〒102-0085 東京都千代田区六番町7 日林協会館内

Tel&Fax: 03-3261-2766

※お急ぎの場合は forestryheritage.jp@gmail.com (担当: 檀浦) に、取材希望との短いメッセージをお寄せください。折り返しご連絡いたします。

詳細情報については、学会ウェブサイト「林業遺産」もご参照下さい。

<https://www.forestry.jp/efforts/forestryheritage/>

本事業は林野庁の後援のもとで実施しています。

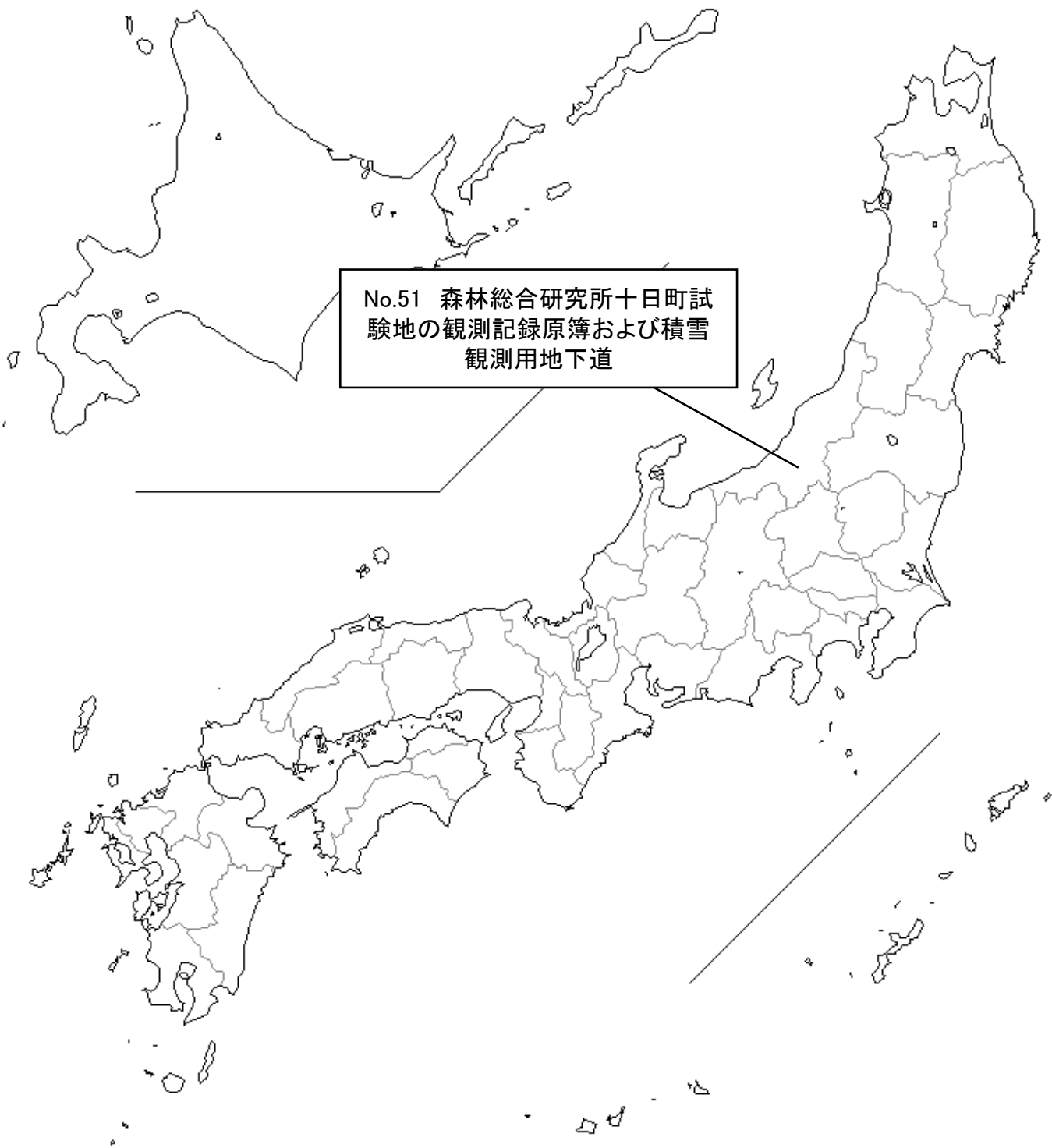
2023年度林業遺産選定結果と主な内容

登録年度	登録番号	林業遺産名	分類・形式	成立年代	所在地	所有・管理者	説明
2023	51	森林総合研究所十日町試験地の観測記録原簿および積雪観測用地下道(しんりんそうごうけんきゅしよとおかまちしけんちのかんそくきろくげんぼおよびせきせつかんそくようちかどう)	資料類・建造物	1917(大正6):林業試験場十日町森林測候所 1938(昭和13)年:積雪観測用地下道	新潟県十日町市川原町614-9	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所	森林測候所のうち存続している唯一の試験地であり、多雪地域の林業や山地の雪氷災害防止に大きな役割を果たしてきた施設と資料である。積雪観測用地下道は竹筋コンクリート製で社会情勢や技術の歴史を今に伝えている。

詳細については、各件の所有者・管理者までお問い合わせ下さい。

今回の選定により、これまで登録された林業遺産は51件となりました。
2024年度以降も当事業は継続して参りますので、各地からの積極的な応募推薦をお待ちしております。

2023年度林業遺産 登録No. 51 所在地図



全林業遺産(2013～2023年度)リスト

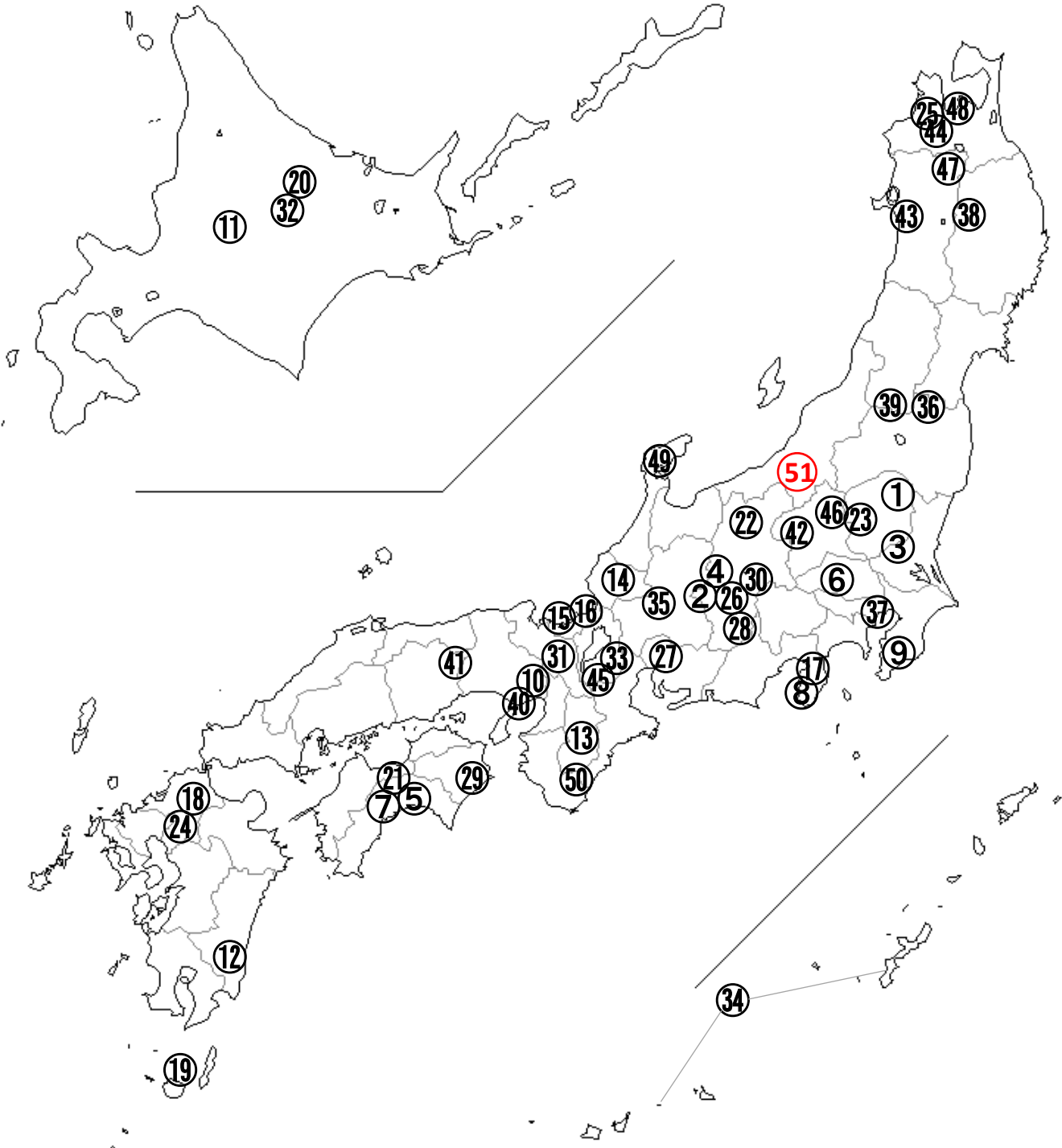
年度	No.	対象名	都道府県
2013	1	「太山の左知」をはじめとした興野家文書	栃木
	2	旧木曾山林学校にかかわる林業教育資料ならびに演習林	長野
	3	全国緑化行事発祥の地	茨城
	4	木曾森林鉄道(遺産群)	長野
	5	四国森林管理局保存の大正～昭和初期の林業関係写真	高知
	6	飯能の西川材関係用具	埼玉
	7	いの町の森林軌道跡	高知
	8	東京大学樹芸研究所岩樟園クスノキ林	静岡
	9	大学演習林発祥の地:浅間山(千葉県鴨川市)	千葉
	10	猪名川上流域の里山(台場クヌギ林)	兵庫
2014	11	天然林施業実践の森「東京大学北海道演習林」	北海道
	12	飫肥林業を代表する弁甲材生産の歴史	宮崎
	13	吉野林業	奈良
	14	越前オウレンの栽培技術	福井
2015	15	若狭地域に継承された 研磨炭の製炭技術	福井
	16	若狭地域の里山における熊川葛の生産技術	福井
2016	17	伊豆半島の森林史に関する資料	静岡
	18	小石原の行者杉	福岡
	19	屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡	鹿児島
	20	蒸気機関車「雨宮21号」と武利意・上丸瀬布森林鉄道遺構群	北海道
	21	初代保護林 白髪山天然ヒノキ林木遺伝資源保存林	高知
	22	木曾式伐木運材図会	長野
	23	足尾における治山事業による緑の復元	栃木
2017	24	矢部村における木馬道と木場作林業	福岡
	25	我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群	青森
	26	旧帝室林野局木曾支局庁舎および収蔵資料群	長野
	27	日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による溪間工事建造物群	愛知
	28	遠山森林鉄道の資料および道具類・遺構群	長野
	29	海部の樵木林業	徳島
	30	進徳の森と中村弥六の関連資料群	長野
	31	北山林業	京都
2018	32	十勝三股の林業集落跡地と森林景観	北海道
	33	木地師文化発祥の地 東近江市小椋谷	滋賀
	34	琉球王朝時代の多良間島の「抱護」と『林政八書』	沖縄
	35	郡上林業の歴史と技術を伝承する資料・展示と社叢林	岐阜

全林業遺産(2013～2023年度)リスト

年度	No.	対象名	都道府県
2019	36	湯野風穴種子貯蔵施設遺構	福島
	37	大日本山林会 林業文献センターと収集資料群	東京
	38	平蔵沢ヒバ人工林施業展示林	岩手
	39	米沢市の山との暮らしを伝える遺産群:草木塔群と木流し	山形
	40	再度山の植林と関連資料	兵庫
	41	大型木製水車駆動帯鋸製材装置一式	岡山
2020	42	川浦山御用木御伐出絵図	群馬
	43	秋田藩家老渋江政光の林業思想に関する古文書及び石碑	秋田
	44	坪毛沢ヒバ木製治山堰堤群	青森
	45	甲賀の前挽鋸製造および流通に関する資料群	滋賀
2021	46	林業機械化センター保存の森林鉄道車両群と根利森林鉄道遺構	群馬
	47	長走風穴種子貯蔵遺構	秋田
	48	旧青森営林局庁舎(現青森市森林博物館)	青森
2022	49	能登のアテ林業	石川
	50	北山川の筏流し技術	和歌山
2023	51	森林総合研究所十日町試験地の観測記録原簿および積雪観測用地 下道	新潟

全林業遺産(2013～2022年度)地図

● 2022年度 ● 2021年度まで

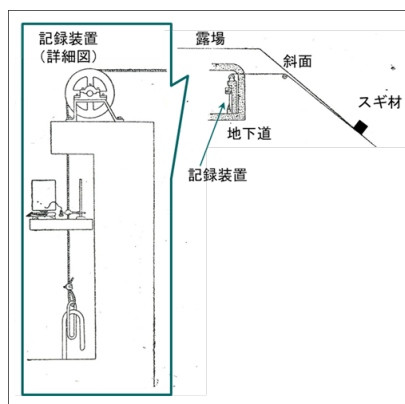


森林総合研究所十日町試験地の観測記録原簿および積雪観測用地下道(しんりんそうごうけんきゅしよとおかまちしけんちのかんそくきろくげんぼおよびせきせつかんそくようちかどう)

森林総合研究所十日町試験地は、1917（大正6）年3月に林業試験場十日町森林測候所として設立され、1936年に十日町森林治水試験地、1950年に十日町試験地と改名して現在に至っている。森林測候所のうち存続している唯一の試験地であり、気象観測値を記録した気象月表原簿は1917年当初から保管されている。この十日町試験地には斜面上の積雪の動きを地下から観測することを目的に造られた全長50 mの地下道が現存している。完成は1938年12月、補強材として鉄の代わりに竹を用いた竹筋コンクリート製で、金属不足を補うために考案された戦時中の技術で造られており、社会情勢や技術の歴史を今に伝えている。豪雪地に位置する利点を活かした積雪や雪崩の研究により、多雪地域の林業や山地の雪氷災害防止に大きな役割を果たしてきており、林業遺産としての価値が認められる。



観測記録原簿



積雪移動量記録装置

備考:地下道や実験斜面については十日町試験地WEB博物館に写真とともに紹介され、誰でも閲覧できるようになっている。
https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/tkmc/s/tkmc_webmuseum_j.html



地下道の滑車

認定対象:観測記録原簿および地下道
所在:新潟県十日町市川原町614-9

事業の内容

「林業遺産」事業では、各年度ごとに以下の分類に基づき、林業発展の歴史を示す景観、施設、跡地等、土地に結びついたものを中心に、体系的な技術、特徴的な道具類、古文書等の資料群を、林業遺産として認定しています。

- (1) 林業景観(用材林、防災林、薪炭林、特用林産物生産林等の森林の利用に関する景観)
- (2) 林業発祥地(有名・独特な施業体系をもつ林業の発祥地)
- (3) 林業記念地(記念植樹、旧係争地等の森林利用に関するメルクマールの意味を持つ土地)
- (4) 林業跡地(施業跡地、土場・炭焼き等の利用跡地)
- (5) 搬出関連(森林軌道、林道、筏場、木馬道等。現存・跡地を含む)
- (6) 建造物(林業発展の歴史を示す建造物。現存・跡地を含む)
- (7) 技術体系(林産物加工技術、施業計画等)
- (8) 道具類(地域の林業発展を特徴づけるまとまった道具類)
- (9) 資料群(林業関連のまとまった古文書・近代資料、写真、映像等)

候補の推薦は、学会員を通じて行われ、「林業遺産選定委員会」にて審議の上、理事会の承認を経て選定となります。推薦にあたっては、対象の所有者・管理者の了解を得ていることが条件です。

一般の窓口として、「地区推薦委員」を設けています。林業遺産としての認定を希望される対象の所有者・管理者の方は、その所在地区の地区推薦委員にお問い合わせの上、推薦などのサポートを依頼することができます。



＜林業遺産ロゴマーク＞